

編集後記

先日、”成年後見人制度”の研修に2日間参加しました。成年後見人とは、認知症など判断能力が失われた人の代わりに生活上必要な法律行為を行う人のことです。その判断能力の失われた人の親族が成年後見人となるのが望ましいですが、核家族化が進み、頼れる親族が近くにいないケースも多く、そのような場合に税理士等の専門家が後見人に就任するケースが増えています。税制改正や、社会のニーズに対応できるよう、何歳になっても勉強し、スキルアップしていきたいものです。(八木)

今回からニュースレターが大幅バージョンアップされました。それに伴い紀行ものを担当することになりました。旅行したのは2001年のことなのでかなり古い話で、今とは状況が全く異なります。この年の9月11日を境として、イスラム教に対する風当たりが強くなりました。実際は一部の過激派、原理主義者が問題であって、現地の一般の人たちはごく普通の親切で優しい人たちでした。今回の記事を読まれて、そういった誤解が少しでも解ければと思います。(角井)

今年の夏休み、我が家の娘たちは、初めて子供だけのフライトに挑戦しました。6歳以上の子どもだけで飛行機に乗れる「全日空のキッズらくのりサービス」。9歳と6歳の娘を、搭乗口でCA(キャビンアテンダント:スチュワーデスの意)をお願いし、実家のある宮崎空港で迎えにきた祖父母に引き渡してくれるという便利なサービス。親の心配をよそに意外と平気だったようで、ちょっとは成長(?)を感じた夏でした。(田村)

この夏は、家族でプールに頻繁に通っています。その甲斐もあってか、水の中で目を開けられなかった長男が今では魚のように水に楽しそうにもぐり、うれしそうに泳ぐ姿を見られるようになりました。二男はまだ水慣れの段階ですが、何回か通ううちに、怖いけど楽しいという感じになってきました。少しずつですが、できなかったことができるようになる喜びをたくさん体験して、成長してほしいです。(名倉)

発行元: **税理士事務所 SBL**

〒631-0822 奈良市西大寺栄町3-23サンローゼビル2階
☎ 0742-32-1112 fax 0742-32-1113
HP <http://sbl-plaza.com>
Email zei-info@sbl-plaza.com



★近鉄電車でお越しの場合

大阪難波駅より快速急行で32分
京都駅より急行で41分
橿原神宮前駅より急行で28分

↓
大和西大寺駅より徒歩3分

★お車の場合

第二阪奈道路 宝来出口から約10分
京奈和自動車道 木津ICから約20分
西名阪自動車道 郡山ICから約40分



SBL 通信

2012年9月号 Volume.33

ビジネスと生活を応援するSBLの事務所通信



消費税特集

税率アップ、免税制度でどう変わる!?

かぐいの
気まぐれ紀行「まあるい地球の歩き方」
～フンザ編～

今月の思い出の・・・1980's杉山清貴

Bi食倶楽部 ～半田そうめん～

今月のお知らせ

ハウ・ツー「自炊&電子書籍」

社会保険料率9月改定

紙面全面リニューアル!!!
by Adobe InDesign

お知らせ

《厚生年金保険料率の改定》

9月からの社会保険料率の改訂があります。JDL給与ソフトをお使いの事業主様には、別紙ご案内文書を同封しております。

《職業体験プログラム募集》

以前ニュースレターでも取り上げた、「SBL職業体験プログラム」現在、事業主のご子息限定で募集しています。ご子息の将来の進路決定に少しでも役立ちたく考えて企画しております。

事務“窓”から

前号でご案内しました、自炊&電子書籍化。事務所でも活用を始めました。

今まで、税務ハンドブックを持ち運んでいましたが、スマートフォンなどに入れて持ち運んで活用したいと思います。

主な手順は以下のとおりです。

- ①本の背を、裁断機で切断する。
- ②切断した各ページをスキャンする。
- ③スキャンしたページをACROBATなどのPDF編集ソフトで結合、しおりやリンクなどを挿入し、検索しやすいようにする。

手順を動画にて撮影しています。興味のある方には、ご案内させていただきますのでお申し出ください。



七転び八お記

表紙ドアップの釈明

前号で告知しておりましたが、SBL通信をリニューアルし、より見やすく、内容も充実してまいりました。

まず、表紙のドアップ写真に驚かれたかもしれません。有名人やモデルでもないのに、厚かましく思われたかもしれません。

しかし、せつかくのリニューアルなので、強いインパクトを持っていただければと思い、私自身も恥ずかしいのですが、決断しました。

ちょっとした“雑誌風”に仕上がっています。出版印刷の専門業社ではありませんが、ここまで自作できました。いかがでしたでしょうか？

導入の理由

私たちは“税理士事務所”であり、税務と会計に関するサービスの提供を基本としています。そこまでこだわらなくてもという見方もあろうかと思えます。

今回、導入に踏み切った理由は、大きく2点あります。それは、①皆さまにお届けする情報の伝えやすさや質を上げたい、②提供サービスの拡充の2点です。

情報をより読みやすく

私たちSBLは、難しいことをわかりやすく説明することを心がけてまいりました。読みやすい紙面、写真やイラストなどにこだわりを持って今後とも対応していきます。

今回からは、アドビ社の“インデザイン”というソフトを使用しています。アドビ社は、PDFのリーダーで有名な“Acrobat”を制作している会社です。このソフトは、印刷・出版業界で広く使われているソフトウェアで、エクセルやワードといった事務系のソフトとは、目的が違います。エクセルやワードでも、多少のイラスト・写真の加工はできますが、本職ではありません。

会社案内にも活用

もう一点は、主に人材や予算の限られた中小企業の皆さまに、会社案内作成サービスを提供したいと考えています。

我々は出版のプロではありませんが、出版専用ソフト“インデザイン”とカラー印刷に秀でた富士ゼロックスの複合機の助けにより、決して見劣りのしないレベルで作成したいと思います。品質は、このニュースレターを見ていただければ、お分かりいただけると思います。

次号でSBLの会社案内をお届けする予定です。

SBLは、税務と会計に関すること以外の分野にも、皆さまのお役に立てるよう取り組んでまいります。 (八木)

思い出の...

我が家の夏の曲

夏の思い出の曲といえば、我が家では、杉山清貴(時代を感じてしまいますが...)

知らない方も多いのではないかとと思われるが、横浜市出身で現在53歳。メディアに登場する時には、大抵、黒いサングラスを掛けていて、現在はハワイを第2の拠点として活動中です。

ヒット曲など

1983年に「杉山清貴&オメガドライブ」としてデビューし、透明感のあるハイトーンボイスで、1985年に「ふたりの夏物語」が大ヒットしました。

翌年には「さよならのオーシャン」でソロデビューし、夏の印象が強いのですが、クリスマスソング「最後のholy night」もヒット曲にあげられます。

ドラマ主題歌やCMソングなど、ファンでなくても、耳にした事のある曲は多数あるはずですよ。

学生の頃の思い出の曲

主人と知り合った学生の頃、いつも車の中でかかっていた彼の曲。

チューブやサザンのように夏や海のイメージが強く、よく神戸の須磨の海岸線をこの曲を聴きながらドライブしたものです。今は遠い昔なのですが、夏にオススメの彼の曲。

一度お聴きになってみませんか？ (田村)

(杉山清貴 年表)

1983年 杉山清貴&オメガドライブデビュー

1985年 5thシングル「ふたりの夏物語」がヒット

1986年 オメガドライブ解散。同年ソロデビュー。

1986年 「さよならのオーシャン」、

1988年 「風のLONELY WAY」などがヒット



Bi食倶楽部



今年も暑い日が続いていますね。この季節には、冷たい素麺が食卓にのぼることも多いのではないのでしょうか？ご存じの方も多いと思いますが、今回は、半田そうめんという素麺をご紹介します。 (名倉)

産地は徳島県つるぎ町

半田そうめんは、徳島県つるぎ町(旧半田町)が産地で、吉野川の船頭が、奈良県桜井市の三輪より天保時代に淡路、鳴門を経て伝えたとされており、歴史ある素麺です。

太い麺が特徴

半田そうめんの特徴は、なんといっても麺が太いこと、コシの強さです。素麺とうどんの間位の太さで、コシがあり、モチモチとした触感を味わうことができます。

そのまま薬味を添えて冷たく食べてもいいですし、コシが強いので冬は温かいおつゆで食べてもそのしっかりとした食感を味わうことができます。

私的には、シンプルに薬味でいただくのが好きですが、パスタ風、冷麺風、焼きそば風等いろいろな料理で活躍する麺です。

一度食べると病みつきになりますよ。 (名倉)



平成24年8月10日、消費税の増税を柱とした社会保障と税の一体改革法が、民主・自民・公明党などの賛成多数で可決されました。

増税までの道のり

もともと民主党は、増税ではなく、ムダの削減を公約に、政権を獲得した経緯があります。近いうちに国民の審判を得る(解散総選挙)という首相の言葉からも、実際の消費税率アップに向けては、もう一局面ありそうです。

消費税率は2段階にアップ

さて、今回の改正の大きなポイントは、消費税率を平成26年4月に8%、平成27年10月に10%まで引き上げるといふものです。ただし経済情勢の悪化など緊急時には増税を見合わせる事ができる条項も盛り込まれています。これは、平成6年に消費税率を3%から5%へ引き上げたことが景気後退の引き金になったことが教訓として念頭にあります。

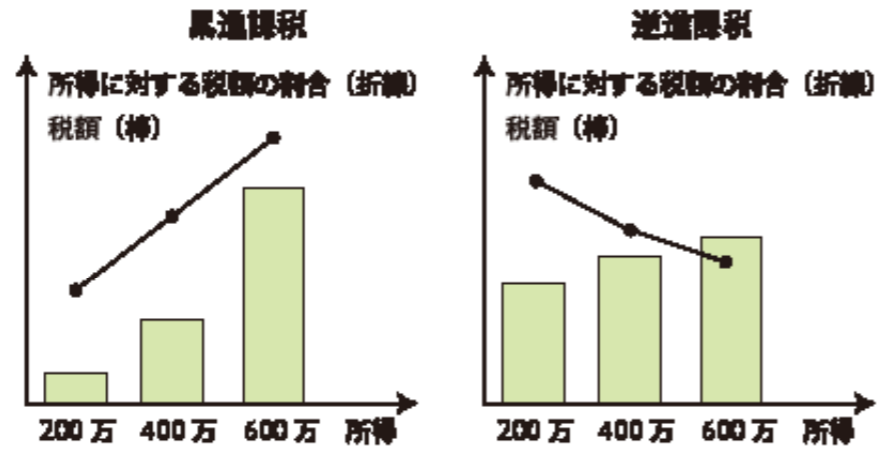
(増税の時期)	(内容)
平成26年4月	5% → 8%
平成27年10月	8% → 10%

消費税は“逆進課税”

税金は、所得の高い人や財産を多く所有する人、すなわち税金を負担できる能力のある人に対し、より多くの税負担を求めるといふ、累進課税の考え方があります。

消費税は、所得が少ない人ほど所得に対して高い割合の税を負担することになる“逆進課税”であると言われています。

【図表】累進課税、逆進課税のイメージ



例えば家族の年間の食費が100万円の場合、消費税率10%の時には消費税は10万円となります。ここでは所得が1000万円の家族にとっては所得に占める消費税の割合は1%ですが、所得が500万円の家族にとっては2%、200万円の所得の家族にとっては5%となります。

このように、消費税は所得の低い人にとって、負担感が強い傾向があります。

諸外国の消費税率と軽減税率

ところで、日本の消費税率は諸外国と比べて低いと報道されています。実際どうなのか調べてみました。なるほど、現在5%の日本の消費税率は低いと言えます。

ただし、生死に直結する食品に対する税率については、多くの国

国名	税率	軽減税率
スウェーデン	25	12
イギリス	20	0
フランス	19.6	5.5
ドイツ	19	7
中国	17	13
韓国	10	10
豪州	10	0
日本	5	5

で軽減税率または免税制度を導入しています。

今回の消費税増税にあたって、低所得者対策として、諸外国でも導入されている「食料品等に対する軽減税率」や次に述べる「所得税の給付付き税額控除」の導入が検討されています。

所得税の給付付き税額控除

この“給付付き税額控除”は、従来の日本の税制にはなかった制度です。通常は税額控除とは、計算された税金を限度に控除を認めることが前提となっています。

たとえば、住宅ローン控除。住宅ローン控除前の所得税が15万円とします。仮に住宅ローンの年末残高2,000万円の1%である20万円が住宅ローン控除を受けることができる金額です。ただし、実際には所得税は15万円しか課されていないので、住宅ローン控除はその15万円が限度となり、5万円は受け取ることができません。

これが、給付付き税額控除となった場合、課せられている税金を超えて税額控除(20万円)を受け取ることになります。(八木)

事業開始から2年間の「消費税の免税」制度が見直しされています。

消費税の納税義務は、基準期間の売上高で判断

消費税は、その名前のとおり、消費者(=生活者)が負担し、その消費税を預かった事業者が納付する税金です。

その消費税の納付ですが、基準期間の売上高が1,000万円以下の事業者については、その課税期間の納税義務が免除されます。

<基準期間とは>

- ①個人事業者の場合・・・前々年
- ②法人の場合・・・前々事業年度

開業2期の免除を見直し

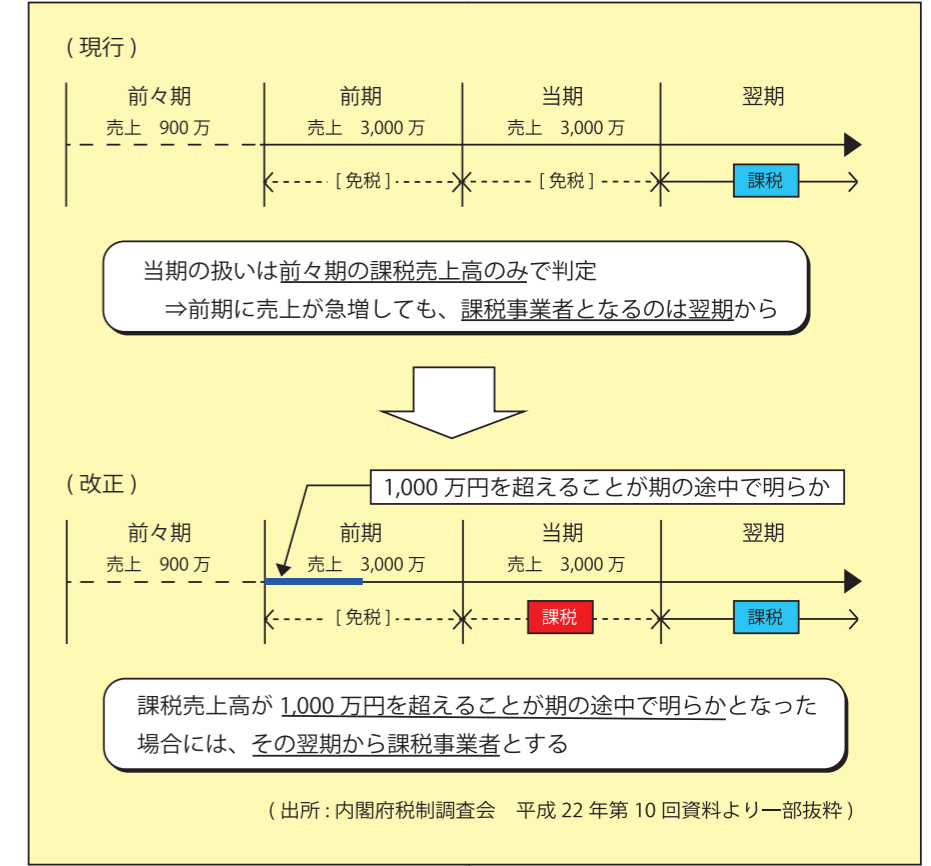
ところで、資本金が1000万円未満の新設法人や新規開業個人事業主については、基準期間が存在しない場合(1期目と2期目)には、消費税を納めなくてもよいことになっていました。

しかし、法人設立による課税逃れを抑制すること等を目的に、消費税が免税される条件の見直しが行われました。新設法人や新規開業個人事業主の2期目の消費税については、消費税が免除されないケースも出てきます。

特定期間の給与等の額で判断

平成25年1月1日以後に開始する事業年度から、特定期間における課税売上高が1,000万円を超える事業者については、その事業年度の消費税の納税義務が免除されなくなります。

ただし、課税売上高に代えて、個人事業者または法人が特定期間



中に支払った給与等の金額で判定することができます。

実務上は、売上高ではなく給与等の金額をもって、消費税の課税・免税を判断することになると思われます。

<特定期間とは>

- ①個人事業者の場合
前年1月から6月までの期間
- ②法人の場合
前年度開始から6ヶ月の期間

<判定例>

上記の設例の解説をします。現行の制度では、基準期間(前々期)の課税売上高(900万円 ≤ 1000万円)を見て、納税義務がないと判断していました。

改正後は、基準期間の課税売上高が1,000万円以下であったとしても、特定期間の課税売上高または給与等の額が1,000万円を超えると、当期の消費税は免除されません。

設立1期目の上半期給与で判断

新設法人に置き換えると、設立1期目の上半期の給与額等が1,000万円未満であると、従来どおり設立2期間が消費税免除ということになります。(八木)



カクいの丸い地球の歩き方

この記事は、放浪旅の好きな角井がお届けする旅行記です。

ラホールの夜

バンコクからの飛行機がラホールに着いたのは、夕方日が暮れてからだった。空港から一歩外に出たとたんムツとした暑さに包まれ、一気に汗が噴き出した。

ラホールは、パキスタン北部にあるパンジャブ地方の都市で、ムガル帝国時代の遺跡も多く残されており、イスラム教の大きなモスクがある宗教都市としても有名だ。

2001年夏のパキスタン北部ファンザへの旅は、このパキスタン第2の都市から始まった。

“風の谷”のモデル「ファンザ」

ファンザはパキスタンの北の端、中国との国境に接する地域で、最近までファンザ藩王国が支配していた。そのため、パキスタンの他の地域とは文化、風習がかなり異なる。また何より、バックパッカーの間では、中国からパキスタン、アフガニスタンへと抜けるアジア横断ルート^①の要所として有名だ。

さらに惹きつけられるのは、宮崎駿の「風の谷のナウシカ」の風の



谷のモデルとなったと噂される場所であり、また、宮本輝の小説「草原の椅子」の舞台としても有名で、「桃源郷」と言われるほど景色が素晴らしい。バックパッカー達の憧れの地のひとつとなっているのも納得できる。

ファンザへの道のり

パッカー達の憧れの地だけあり、ファンザまで行くには結構な道のりを行かなければならない。

陸路で行くには2つのルートがあり、まず今回のパキスタンから入るルート、そしてもうひとつは中国の新疆ウイグル自治区のカシュガルからクンジュラ峠を越えるルートだ。

基本空路は使わないという変なポリシーを持つ社会人パッカーの僕にとって、中国から入るのはあまりに時間が掛る。

中国ルートというのはこうだ。まず、上海又は北京から入り列車、バスを乗り継いでタクラマカン砂漠を越え、シルクロードの砂漠の町カシュガルに行く。そこからさらにバスで5000m弱あるパミール高原の峠を越える。列車だけで4、5日、そこから峠越えとなると、それだけでタイムアウトだ。

というわけで、今回はパキスタンから行くことになった。

ラホールの熱帯夜

パキスタンからのルートでファンザへ行くには、首都イスラマバード近くの町ラワールピンディから出ている、カラコルムハイウェイを走る長距離バスに乗らなければならない。

時間に追われる社会人パッカーの僕にとっては、すぐにピンディに



移動したいところだが、すでに日が暮れていたため、その日はしかたなく近くで一泊することにした。

適当な安宿を見つけ、明日からのハードな移動に備えてさっそく寝ようとベッドに転がった。が、どうしても眠れない。暑すぎる!!

温度計はなかったが、真夜中でも50度近くはあっただろう。しかも湿度が異常に高い。何もしていなくても汗が噴き出して来る。

ここに比べればバンコクの夜なんて、エアコンの効いたタイマッサージ屋で寝るようなもんだ。しかも、暑さをしのぐものと言えば、天井でゆる〜く回る、今にも壊れそうなファンと、アルコールが禁止されているイスラム教国での必需品、ペプシコーラだけだった。

アザーンの声で起床

一晩中うなされ続け、アザーンの声で目が覚めた。アザーンとはイスラム教の礼拝の呼びかけの声で、1日に5回、街中至る所にあるスピーカーから大音量で流される。「アッラー・アクバル、アッラー・アクバル…」この声を聞けば、イスラム教国に来たんだという実感が湧いてくる。

アザーンを聞きながらヨロヨロとベッドから起き出してみると、ベッドの上がまるでドラマの殺人現場の様に、きれいな人型にグッショリと濡れていた。動かずにこれだけ汗をかいたのは初めてだ。楽しんで痩せたい人にはラホールでしばらく滞在してみることをお勧めした



い。1週間で確実に5キロは痩せるだろう。

イスラム式の朝食

暑さと睡眠不足で体力を奪われフラフラになりながら、何とか気を取り直し朝食のとれる場所を探す。これから始まる長距離の移動に耐える為には、まずしっかりと食べなければならない。

運よく宿を出た辺りに、食堂らしきものがあったので入ってみる。薄暗い店の中にはテーブルが何席もあり、地元の人らしき2人が食事中だった。パキスタンの人は皆同じような真っ白の、膝丈くらいまである長いブラウスを着ている。あいにくウルドゥー語は全く分からないので、彼らの隣の席に座り、これまた同じ白い服を着た店の人に彼らが食べているものと同じものを注文した。

食べていると、しばらくして隣の彼らが話しかけてきた。どうやら一緒に食べようと言っているようだ。せっかくなので一緒にすることにした。彼らは片言の英語なら分かるようで、あれやこれやと話しかけてきて、彼らの食べているものもいろいろと勧めてきた。

イスラムの教え“旅人を親切に”

彼らが言うには、イスラム教の教えでは旅人には親切にしなければならないそうだ。もともとイスラム教は砂漠で生まれた宗教のた

め、環境の厳しい砂漠で生きぬくためのいろいろな知恵が教えとして入ってる。と以前に聞いたことがある。

このように旅人に親切にすることもその一つなのかもしれない。

僕はそれまではイスラム教と聞くと、ロシア製の自動小銃カラシニコフを持って、コーランを唱える髭をはやしたヒョロっと背の高い人たちという、怪しげなイメージしか持っていなかった。

でも、こういった現地の人との何気ない会話でそんな変なイメージはどんどん崩れ始める。それまで当たり前と思っていた根拠のない固定観念が崩れることほど面白いことはない。これが、実際現地に行ってみて肌で感じなければ分からない、旅の醍醐味だ。

これからファンザまでの旅で、これまでの固定観念がどれくらい崩されるのか。暑かった夜のことはすっかり忘れ、ますます期待を膨らませずにはいられなかった。(角井)

パキスタン データ

世界四大文明のひとつ“インダス文明”の発祥の地。モヘンジョダロなどの遺跡が有名。

国名 パキスタン イスラム共和国
言語 ウルドゥー語、英語
面積 80万3940km² (日本の2倍)
人口 1億8080万人 (2008年)
首都 イスラマバード

